

タバレットブル

作 TAKEM

私がか日常、目にする事で、午前11時頃に地下鉄

乗車して、いるのかと疑問に思ふ事である。しかしながら

色を、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

色、常考して、疑念に思ふ事である。その色といふ

なせならおっさんはケイタイもパソコンもまったく  
さわった事が無いアノ人間であり、ましては、  
タツチパネルのタブレットさえ見た事が無かつたか  
らである。そしてそのおっさんは、シゲシゲとなか  
めなから、タツチパネルをいじりまわしてしまふ。  
まさか画面の出し方さえわからなまま、イライラ  
かつのり、タブルレットをこぶしで打ちつくと偶然  
にも画面がおっさんわれん心するが、無情にも出てきた  
画面は、おっさんの希望する飲物メニューではな  
く、おっさんのメニューであつた。ちぎしよとあもつた  
か、おっさんは「カラカラ」はらはら「ペコペコ」なので、やけにな  
つてあたりかまゆす、又「クチャ」に「タツチ」パネルを押し  
し、しまふ。注文したくも良いところまで押すの  
は、注文本「タツチ」を押しなかつたので、品物は、何  
ひとつ出て来ない。店員よ、出して、ホッタンを押し、  
女性店員が「さあ、さあ、あれ、御注文はよろしい  
ですか」と聞く。おっさんは注文して、いるのに来ない  
と「文句を言う」。タブレットをかし、下さい、注文本  
タツチを押し、さすからとおっさんに念をおして、から言  
うと、「さあ、さあ、おっさん、なんでも良いから、  
て来いと、つい、言わなくて、も良いこと、を言つてしまふ。



みの盛り合わせそれと厚あげたど大声でわめきはいい  
る。タフレットを取り上げたたん、こんなものかあ  
るからかメなんじやとたきこわしてしまおう。

店員キャーととメイさくさま店長をよむに走り出す  
さあ店内は大変なことになつてしまつた。すると、  
すぐに店長があらわれて、おっさんとの会話がはじまる。

店長<sup>30</sup> ロール完<sup>40</sup> ロボッサー

店長 ▼ 「お客様申し訳ないのですが、ここではお話し出  
きませんので、外で話しをしませんか？ 他のお

お客様に御迷惑になりますので。」  
おえ ◇ 「ふざけんな！ このアソカキが！ 何様と思つて  
いるんや！ こつちもお客をどわかつているのか！

(机の上にあるユツカのお店の願わかけする)

店長 ▼ 「こちら側とはお客様のお注文したお食分と席料ひとり分  
タフレット弁償代を支払つて下さいと言つているたけです。」

おえ ◇ 「俺はタフレットが気に入らないからこわしたや！  
一食も口にしえないのに払えとは、どのコウさげて  
言つてるんだ！ 俺は一銭も払わないからな、いいか

覚悟しろよ俺をなめんなよこら！ (怒)

店長 ▼ 「わかりました出るところに出ましようか？」  
とれでよろしいでしょうか？ (怒)

おっえん ◇ (突然パンチをくり出す)

「わかからんやつにはこうしてくれるよ。」

(何回も何回もネコパンチをくり出す)

店長 ▼ (当然元ワロホ子一の店長はひよいひよいとかわしてしまふ)

おっえん ◇ 「ようしゃしないどころいー！」 (怒)

(ネコパンチでは通じないと思つたのか、頭からの頭突き(ヘッドバット)に攻撃手を

変える)

店長 ▼ (ギリギリのところをひよいとよける) (店長のなにかをみせ)

おっえん ◇ かがかッシャーッ (おっえんいきおいあまそ、机に頭ごとフッこみ運が無い事に、

自分の泣き声も多分とワリンにむかへておれこんでしまふ)

(店内のお客が何事かと大騒動、中には野次馬のお客もあつた)

店長 ▼ (なにこどもなかつたかのように、おっえんを引っぱりあげ立たせる)

おっえん (なれいと鼻から血が吹き出して、無残な姿)

「ヒーヒー」 (声にならぬ声) (その場でおっえんは気絶)

店長 ▼ 「すぐ緊急救車を用意して」 (店員に指示すると、間もなく

おっえん ◇ (タンカーで運ばれていく) (その時 急救車かとうちやくする)

のおっえんのサイフの中身は三千円しかなかつた)

後日、おっえんの家にて請求書を送られて来た。

内容は、飲食代36食分、席料ひとり分、ダブルト弁償代1台分、食器弁償代28個分

テーブル弁償代2台分、病院治療費代ひとり分

計ナハル三千円請求致します。

かめさん 怒りをかっただのは言うまでもない  
かめさん 「あんた何してるのよ！ 小遣い半額！ それと  
お酒は当分の間、禁止！ わかっただけね！  
まもらないなら家に帰ってくるな」  
あつさん 何も言えずに顔も心もブルブルに  
あの店に行かなければ、あの夕ブレットさえなかっ  
たらうと思ふのであった。教訓、アナログ人間は、  
私や妙に機械をさわってほならない。  
(完)

キスト

あつさん ながら健彦

女性 店員 吉高由里子

店長 寺島進

かめさん 泉ピン子

お客 エキストラ